

## LPガスCP速報(2022年10月積)

### 1. 9月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン 590<sup>ドル</sup> (前月比-60<sup>ドル</sup>)

ブタン 560<sup>ドル</sup> (前月比-70<sup>ドル</sup>)

#### ① LPガススポット市況等

原油市況が急落するなか、LPガス市場をみると、不需用期でプロパン需要は低迷、ブタンは石化需要が減退し、景気減速を投影したかのように。中東市場は、原油増産で産ガス国の供給は潤沢であったのに対し、中国はコロナ感染拡大の影響が大きく、PDH需要も低調、ブタンはインド需要が振るわず、石化需要もナフサ安で競争力を失い低迷した。極東CFRは第3週までプロパン670<sup>ドル</sup>、ブタン650<sup>ドル</sup>を挟んだレンジで推移、原油安を受けて第4週にプロパンで650<sup>ドル</sup>を割り込み、ブタンは600<sup>ドル</sup>まで軟化、ブタン安が顕著になった。

米国市場をみると、輸出は堅調、高水準が続いているが、需要は低迷、在庫が積み上がってきた。全米プロパン在庫は28週連続の増加、5週連続で前年同期を上回り、5年平均レンジの中央に戻した。モンベルビュープロパンスポット価格は、在庫増を受けて続落。第2週に550<sup>ドル</sup>どころに軟化、下旬には原油市況の急落もあり500<sup>ドル</sup>を割り込んだ。MB月間平均は前月比52<sup>ドル</sup>続落の520<sup>ドル</sup>どころ(グラフ①)、昨年6月の以来の安値。

フレート市況は、船舶需給が引き締まり強含んだ。産ガス国の供給が潤沢ななか、パナマ運河の滞船日数が増加、米国の船舶需給が締まるとともに中東市場もインド向け傭船需要やスポット販売の需要が高まりフレート市況は続伸した。

ナフサは大幅続落、月間平均は前月比45<sup>ドル</sup>下落の655<sup>ドル</sup>どころ。原油市況の下落と中国需要の減退が響いた。石化需要が振るわず、石化市況が軟化、ブタンは競争力を喪失し、ブタン市況の下押し要因となった。

バンカーオイルをみると、シンガポールIFO380は月間平均で前月比87<sup>ドル</sup>急反落の423<sup>ドル</sup>となった。また、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は同65<sup>ドル</sup>の大幅続落で981<sup>ドル</sup>どころ、世界的低水準在庫により高騰しているガスオイル価格も7ヵ月ぶりの1,000<sup>ドル</sup>割れ。両油種の価格差は558<sup>ドル</sup>に拡大、ガスオイルはC重油の倍以上の価格。

10月CPは前年同月比プロパン210<sup>ドル</sup>、ブタン235<sup>ドル</sup>それぞれ下落。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン3、ブタン5ポイント低下、前年同月比ではプロパン57、ブタン60ポイント低い。2019年8月以来の低水準。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	63	64	69	77	68
CP先物指標:P	655	640	635	580	628
CP先物指標:B	620	610	600	550	595

#### ② 原油市況等

8月の原油市況をみると、月間平均では3ヶ月連続の下落で、WTIはロシアのウクライナ侵攻前、1月以来の水準に沈んだ。原油市況軟化要因は、欧米中央銀行の利上げに伴うリセッション懸念が第一で、これに中国のコロナ感染再拡大による行動制限実施など需要減退懸念が顕在化してきた。一方、供給はロシアへの制裁強化や、産油国の投資不足、余剰生産能力の低下もあり、OPECプラスの生産量は目標を大きく下回っている。

米国の原油生産量は2020年4月以来の1,200万b/d超が続き、原油・石油製品輸出は過去最高を記録するなど高水準となっているが、在庫水準は石油製品が5年平均レンジの下方を突き抜け(SPR原油は前年同期の68.3%、1984年以来の低水準)タイト。現行マーケットは需給タイトとリセッション懸念で綱引きが行われているが、先物市場はファンド、ヘッジ双方ともにポジション縮小が顕著、流動性が低く、ボラティリティが高い状況が続いている。

○9月積みアラビアン・ライト(9月1~28日までの想定)は100.56<sup>ドル</sup>(前月比-5.54<sup>ドル</sup>)

熱量等価AL100% プロパン824.49<sup>ドル/トン</sup> ブタン813.18<sup>ドル/トン</sup>

AL比 プロパン71.56% ブタン68.87%

\*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

## 2. 2022年10月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	TTS	P円建CFR	B円建CFR	P前月比	B前月比
①20日締め	141.57	99,100	94,600	-1,800	-2,900
②末日締め	143.93	99,900	95,600	-600	-1,800

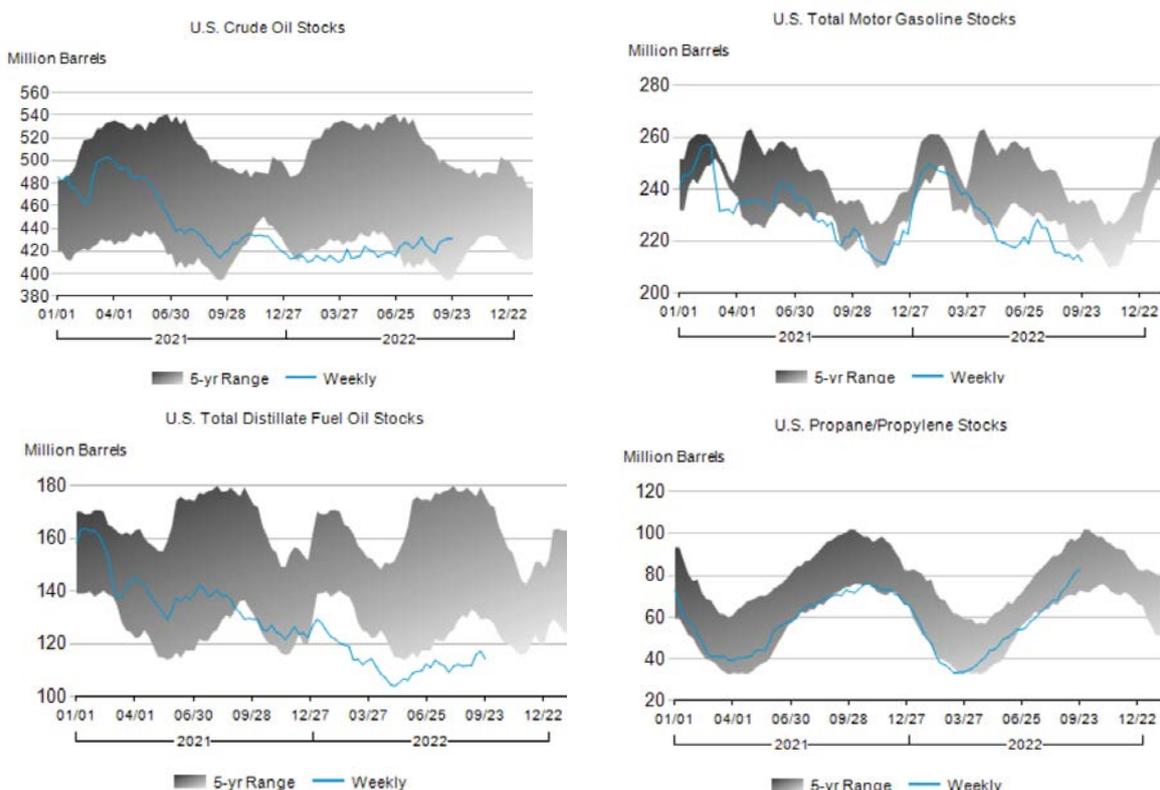
\*TTS平均について、①が8月21日～9月20日、②9月1～28日までで想定。①、②いずれも前月・当月CP50%案分。MB合成の比率は①、②ともにCP70%、MB30%で算定。①、②ともに中東・北米フレートを含むCFRコストを表示。

なお、上記MBは9月27日までの価格を基にEINで試算（520ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

### ①米国プロパンスポット価格推移



### ②全米石油（原油・ガソリン・留出油・プロパン）在庫推移



出典:EIA Weekly Petroleum Status Report